

定年（前？）退職にあたり振り返ってみる

福島森林管理署長 高木 鉄哉

1992年4月

林野庁に採用された私は、本庁の基盤整備課（現整備課）に配置された。そこは民有林の林道事業（公共事業）を担っている課で、予算や法令を担当する企画班に席を得た。当時はまだバブル経済の残り香が漂う時代で、ブラックだけど猛烈でパワフルかつ現代のモラル的にややアウトな職場であった。どうにかこうにか1年を生き延び、体重が10 kg増えた。



熊本県出張（筆者左端、背景は阿蘇山）

1993年4月

次に異動した先は青森営林局の安代営林署（現東北森林管理局岩手北部森林管理署）であった。そこで森林官となった私は、東北の山の中で伸び伸びと過ごし、1年間の本庁暮らしで溜め込んだ鬱屈を晴らすとともに、森林に直にまみれる経験を得ることができた。

しかし、そんな伸び伸びとした森林官ライフは1年4ヶ月で終了。



森林官時代の筆者（中央）

1994年8月

青森県碓ヶ関村へ出向。赴任初日から大遅刻をかまし、出だしから大鬻蹙を買った私だが、根っからの酒好きが功を奏し、間もなく打ち解けることができた。碓ヶ関村では林道作ったり温泉掘ったり宿泊施設作ったりと、イロイロ取り組みイロイロ経験をした。弘前市の鍛冶町や土手町の繁華街にも毎週のように通った。体重は更に10 kg増えた。



民有林での馬による丸太搬出を見学

1997年4月

農林水産省の経済研修を受講することになり、東京営林局へ異動。経済研修では東京大学等の著名な先生方に、古典経済学からミクロ経済学、マクロ経済学といった経済理論？と農業と食料にまつわる国際的なイロイロを学んだ（はず）。夏に結婚を控え慌ただしい日々であったが、局のレク旅行で新島に行ったり木更津で潮干狩りをしたりした。



新島に向かうフェリーの中にて

1997年9月

経済研修終了後、本庁へ。配属されたのは、再びの基盤整備課。今回は森林開発公団管理班の林道指導係長というポストで、かの「無駄な公共事業100選」で名高い大規模林道の担当係長である。所謂「時のアセス」という事業評価制度が導入された時期でもあり、日々、理○局や自然保護団体等と闘い、国会質問への答弁作成に追われ、年間を通じて残業時間が月100時間を下回らない日々が続く。本館地下仮眠室が自宅であった。

1999年10月

経済企画庁総合計画局へ出向。循環型経済社会推進研究会の運営に携わり、廃棄物・リサイクル問題を学ぶ。各省庁から出向している切れ者のエリートたちに混ざり、右往左往しては上司（食糧庁からの出向）からどやされる日々であった。その後は農村のIT化に関する研究会に携わり、イタリアに出張したりした。



サンピエトロ大聖堂と筆者

2001年1月

省庁再編により経済企画庁は内閣府へ改編。小泉政権において猛威を振るった経済財政諮問会議の事務局として、なぜか再び循環型経済社会に関わることに。経済産業省や環境省の担当者に睨まれ、さらには主○局の主査に文句を付けられつつ報告書を取りまとめた。

2002年4月

中部森林管理局名古屋分局岐阜森林管理署荘川事務所へ異動。抜本改革の中、廃止営林署の扉を閉じに行く役割（所長）である。日本海側の宮・庄川流域と太平洋側の長良川流域という2流域に跨る荘川事務所（旧営林署）の特殊事情もあり、廃止に向けて未整理だった事案を抱えていたが、そもそも名古屋分局も廃止される組織であり、頼れるものが少ない中で、のた打ち回りながら最後の日を迎えた。



荘川事務所閉所

2004年4月

環境省自然環境局自然環境計画課へ出向。調整専門官として、世界自然遺産（既登録地、南西諸島推薦）や自然環境保全法などを担当。この年は、知床の世界自然遺産登録に向けてIUCNの調査ミッション受入れという一大イベントが控えており、課の中は殺伐とした雰囲気であった。そんな中、自分は白神山地や屋久島、沖縄などに出張。環境省の組織再編に伴う自然環境保全法の改正では久々に長時間残業。



やんばる(山原)の森

2007年1月

林野庁計画課へ異動。山村振興室の森林総合利用推進班で森林環境教育を担当。KEEP協会や JEEF、CONE、NOTS といった環境教育業界の重鎮団体との交流を通じて「気づくこと」の重要性を啓発される。一方、針〇部長（当時）の肝煎りでスタートした山村再生研究会の事務局となり、長時間残業を強いられる中、山形県戸沢村へ視察旅行に行き、岩手宮城内陸地震に遭った。

2009年4月

森林技術総合研修所へ異動、教務指導官として森林環境教育や治山の研修を担当したほか、新規採用職員や専攻科生の研修、後のフォレスター育成に繋がる研修の企画・実施に参画。‘門前の小僧’というやつで、治山工事の実務経験も無いのに知識だけは専門家並みに。2011年3月、東日本大震災発生。以後、数か月に渡り研修実施が中止となる。

2012年4月

林野庁整備課へ異動。企画班にて森林整備事業（林道）の予算要求と法令、国会対応等を担当。当時、公共事業は大括り交付金化され、非公共の基金定額助成（補正予算）が主戦場。2016年の森林・林業基本計画改定に向けた作業（数値目標の達成状況評価）で、大変酷い目に遭ったが、それもまた良い経験。

2015年4月

関東森林管理局塩那森林管理署へ異動。打って変わってとてもホワイトな職場。そんな中、2017年3月に那須岳山麓のスキー場付近で雪崩が発生。登山講習会に参加していた県内高校山岳部の生徒と教員計8名が死亡。雪崩発生個所が国有林内であり、雪崩危険個所であったことから、この後約10日間に渡りマスコミの取材や警察の事情聴取に対応することとなった。



雪崩危険箇所について語る筆者

2018年4月

北海道森林管理局へ異動。計画保全部調査官として道局の災害対応マニュアル改定とドローン活用推進を担当。何をどうすれば良いか見当がつかず、局長から叱られる日々の中、2018年9月、北海道胆振東部地震発生。震源近くで震度7、札幌市でも震度6弱を記録する中、非常参集せず、局長から大目玉を喰らう。しかしながら、道庁災害対策本部でのリエゾン業務を担った経験が災害対応マニュアル改定に役立った。釣りばかりしていた訳ではない。



北海道胆振東部地震被災地現地調査

2020年4月

四国森林管理局安芸森林管理署へ異動。言葉や文化の違い、ノリの違いに戸惑いながらも、根っからの酒好きが功を奏し、‘いごっそう’にまみれて打ち解けることができた（気がする）。何より、官舎から車で5分の海に毎朝出かけ、1時間ほど釣りができる環境は、正に天国であった。



千本山天然ヤナセスギ希少個体群保護林

2022年4月

関東森林管理局福島森林管理署へ異動。前任者からは「問題山積で大変だよ」と脅されていた。確かに事案は多かったが職員各位がそれぞれ粘り強く対処し、また局からの支援も頂いて、大抵のことは解決することができた。一方、地元首長との関係構築が不十分であったこと、4年間も居たのに行ったことが無い山があることが、心残りである。



署の看板をリニューアルしました
(進藤首席森林官施工)

2026年3月末

退職。今後はヨメ様に養ってもらいながら、できる限り、方々でお世話になった方々を訪ね歩きたいと考えている。